

Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

2023～2024年度クラブ目標

創立1986年

『みんなが楽しい ロータリー』

会長 佐藤 幸彦
幹事 村上 堅二



世界に希望を生み出そう

2023-24年度国際ロータリーテーマ

第1768回例会

令和5年7月27日 (18:00～19:00)

- ソング
 - 奉仕の理想
- ビジター
 - ガバナー 右近 八郎様
 - 地区代表副幹事 相良 元章様
 - 菅 沼裕様
 - 県南分区ガバナー補佐 佐藤靖一様

- スマイルBOX
 - 右近八郎ガバナー
 - 佐藤ガバナー補佐
 - 佐藤幸彦会長 (右近ガバナー、佐藤靖一ガバナー補佐、相良副幹事、菅沼副幹事、本日はありがとうございました。今年度、よろしくお願ひします。)
 - 村上堅二幹事 (本日は、右近ガバナー御指導ありがとうございました。段取りが悪くて誠に申し訳ございませんでした。)
 - 成井正之会員 (右近ガバナー、ご講話大変ありがとうございました。今年もMBLの後半戦になりましたので大谷スマイルを始めます。後半戦34、35、36、そして今日37号でした。皆も一緒にスマイルしませんか。頑張れ大谷翔平)
 - 金田昇会員 (右近ガバナー、地区幹事、公式訪問でのご指導ありがとうございました。今年度一年よろしくお願ひします。)
 - 金田昇会員 (佐川京子会員が市議会副議長に選ばれました。おめでとうございます。)
 - 永野文雄会員 (ガバナー公式訪問ありがとうございました。御指導ありがとうございました。佐藤靖一ガバナー補佐、ありがとうございました。)
 - 中目公英会員 (右近ガバナー、白河西RCへようこそ。相良元章・菅沼裕地区副幹事、随伴いただきありがとうございます。本年度地区の青少年奉仕委員会RYLA委員会会長を拝命しました。ご指導の程よろしくお願ひいたします。)
 - 居川孝男会員 (右近ガバナー、本日は当クラブへの指導ありがとうございました。お体にご注意してください。先週の納涼例会楽しかったです。親睦委員会の皆様ありがとうございました。)
 - 佐藤清作会員 (ガバナー右近八郎様、本日は猛暑の中公式訪問で白河西RCにおいでいただきありがとうございました。)

佐藤・村上年度 ゴルフ愛好会第1回コンペ

優勝	長 克則	9 位	車田 裕介
準優勝	前原 俊治	10 位	堀田 一彦
3 位	齋藤 孝弘	11 位	寺島 由和
4 位	青木 大	12 位	水上 泰真人
5 位	井上 敬裕	13 位	居川 孝男
6 位	永野 文雄	14 位	運天 直人
7 位	成井 正之	15 位	吉成 真五郎
8 位	佐藤 幸彦		

▶第1768回例会出席状況 (R5年7月27日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	53名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	67名
Ⓒ ①の出席者数	27名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓕ ②の出席者数	12名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	39名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	65
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	60.0%

▶例会日: 第1・第3木曜日 (12:30) その他の木曜日 (18:30～19:30)

▶例会場: 白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局: 〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間

佐藤幸彦会長

皆さんこんばんは。本日は大変お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。まず、初めにお客様のご紹介をさせていただきます。第2530地区ガバナー右近様でございます。右近ガバナーにおかれましては、後ほどご講話いただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。続きまして第2530地区県南分区ガバナー補佐 佐藤靖一様。続きまして第2530地区副幹事 相良元章様、続きまして第2530地区副幹事 菅沼裕様。本当にお忙しい中、わざわざ白河西ロータリークラブのためにお越しいただきまして、誠にありがとうございます。今日、別室におきまして会長幹事会を行わせていただいた。その後クラブ協議会を行わせていただきました。その際、ガバナーよりいろいろのご意見ご指導いただきまして、今後の白河西ロータリークラブの発展につなげていきたいと思っております。また、後ほどガバナーから皆さんに対しても御意見をいただけると思ひますので、それを聞きながら皆さんもクラブのために寄与していただければと思ひます。話は変わりますが、先週納涼例会が泉崎で行われました。親睦委員会の皆様、大変お疲れさまでございました。ある意味で集客は西ロータリークラブの記録が出たんじゃないかな、と私は勝手に思っております。参加人数総勢67名の参加をいただきました。数字もそうなんですが、年齢が0歳児生後2カ月のお子様から81歳までと幅広い年齢層のもと、楽しく屋外バーベキューで楽しい時間を過ごすことができました。参加していただけた皆さん、大変お疲れさまでございました。また、先々週の理事会で「こみっと」にチラシを載せるという件でございましたが、皆さんのお手元にあるかと思うんですが、チャレンジ県南ベースボールのPR。また、白河西ロータリークラブのPR載っておりますので、後ほどご覧いただければと思ひます。簡単になりますが、これからガバナーのお話があるかと思ひますので、会長の時間は以上とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。



新入会員の入会式

西山よしえ会員



改めまして、今晚は。本日このような入会式の間を設けていただきまして、ありがとうございます。水の谷工芸株式会社代表を務めております、西山よしえと申します。私も母として、妻として嫁としていろいろ役割を担っております、いろいろ至らない点あるかと思ひますけれども、皆様方からいろいろ学んで成長して、会の方を盛り上げていける一人になりたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○県南分区ガバナー補佐

佐藤靖一様



こんばんは白河南ロータリークラブより出向して参ります。本年度県南分区ガバナー補佐を務めます、佐藤靖一です。いつも西クラブさんにはたくさんの知った方がいらっしゃるので、何かホームに戻ってきたような気もしないでもないんですけれども、いつも楽しみにしています。1年間一生懸命頑張りますので、皆様のご協力をお願いして挨拶とさせていただきます。

■幹事報告

村上堅二幹事

- 右近ガバナー事務所：8月の地区の行事予定について
- 国際ロータリー日本事務局経理室：クラブ請求書2023年7月
- ガバナー 右近八郎、財団委員長 田久昌次郎
- 右近ガバナー事務所：2023-24年度国際ロータリー第2530地区「地区ロータリー財団セミナー」の開催について
- 社会福祉課社会生活支援係 石井：赤十字ボランティア保険申込書の添付漏れについて
- ガバナー 右近八郎、第1地域ARPIC 石黒秀司：END POLIO NOWポータルサイト閲覧とご活用（投稿）のお願い
- 米山記念奨学会寄付担当 大庭陽子：ロータリー米山記念奨学会仏寄付金 申込用領収書受付開始のお知らせ
- 白河RC会長 菊地俊一郎：年次計画書・報告書の送付について

■本日のプログラム

○ガバナー公式訪問卓話

右近八郎様



今日は「ロータリーの誇りを楽しもう」ということで、これは地区のスローガンにさせていただいております。今日の話は結論がこれに繋がるというその間のいろいろな諸状況に関して紹介したいと考えております。今日の内容であります。簡単に自己紹介した後、国際ロータリーの現況というのを共通認識でもっていただきたいという話をしてから、そこで問題になります組織の持つ目的を達成する機能性の問題と、それを裏づける精神性という話をさせていただきます。日本文明が育んできた日本人というのは、その精神性に関して非常に特異性を持っているということと、それがロータリーの中でどういう形になっているかという話をさせていただいて、今後日本人がロータリーというところで非常に活躍できるんだよという話になっております。その際、楽しいロータリー活動というのは、実は奥が深いという話で、最終的なスローガン「ロータリーの誇りを楽しもう」ということにつながっていく話になっております。自己紹介であります。名前は右近八郎で福島ロータリークラブ所属であります。職業分類は、マクサムグループを見ております。数社あるので、事業は持ち株会社という職業分類で届けてあります。出身は北海道でロータリー歴は15年目になっている若造であります。3年前、クラブ会長を終わりましたら即、階段に上り出したということで、今2530地区のガバナーをやっております。本日のスピーチの要旨であります。まず、世界平和を希求する国際ロータリーのビジョンを可能にするには、永続性のある効果的なロータリー活動が求められ、その源泉となるのがロータリアンの自己研鑽と魅力あるクラブづ

くりであると、皆さん個人の活動が、非常に遠大な国際ロータリーのビジョンにつながっていますという話であります。まずは最初に自分のクラブを客観的に、第1段階捉えていただくという数字の上での会員数の現況を簡単に御紹介します。今、会員数4月末現在のデータが2215人、2530地区の最新は2164人です。6月末のデータであります。これは2011年に比べると97人少なくなっています。2017年、6年前ですね。これでも73人少なくなっている。昔は多かったという話であります。このグラフは県南8クラブの2011年の震災前の数を1.0とした時に6年後、現在どのぐらい増減しているかというグラフを書いたものであります。予想通り、赤の実線白河西が一番健康な伸びを示しております。10年前に比べて3割アップという数字になっていますね。もう一つ健全なのが須賀川ロータリークラブです。非常に似たようなグラフになっていますが、その下の石川さんと矢吹さん。1度上がっているんですけども、特に矢吹さんは非常に落ちて後4つは上下したら物理的に下に書いてあるだけなんです、非常に元気がないというか、数の上で低迷していらっしゃいます。一番上の低空飛行しているのは、東白川クラブであります。これは基本認識というか、各クラブというのは、自分のことを一生懸命知っているんですけど、隣のクラブのことをよく知らないということで、客観的に見ていただきたいという話をしたかったので、データを示しただけのものであります。本題に戻ります。これから、国際ロータリーの現況というのを皆さんにお話して共通認識を持っていただきたいということで、初めての方もいらっしゃるかと思います。いろいろロータリー関係の本を読んでいると、これまでの哲学のロータリー変遷というのが何となく頭にもやもやしていたので、整理するためにマップ表示してあります。これは年を追うごとにどういう風に動いているかという図であります。緯度と経度を持って何か表示するマップと呼ばれますが、縦軸です。これは個別のか集団的か、ロータリーでアイ・サーブとかウイ・サーブ、英語ではindividualかcollectiveという言葉を使います。時代と共に集団的になっているという頭があるものですから、こういう軸を設定しました。左右の軸は今日問題にしたい機能的なのか、精神的なのか、ということで、首から下、首から上のイメージであります。当初、ロータリーというのは、初期のロータリー物質的互惠と称して機能的であり、かつ個別で始まったんですけども、もう時を同じくして精神的互惠ということで、個別ではあるんですけども、精神的なところ。これは第1の危機ということで、それほど鋭い対立はなかったんですけど、一応乗り越えて間もなくシェルドンというものがちょっと時代が早かったということもあるん



ですけれども、特に矢吹さんは非常に落ちて後4つは上下したら物理的に下に書いてあるだけなんです、非常に元気がないというか、数の上で低迷していらっしゃいます。一番上の低空飛行しているのは、東白川クラブであります。これは基本認識というか、各クラブというのは、自分のことを一生懸命知っているんですけど、隣のクラブのことをよく知らないということで、客観的に見ていただきたいという話をしたかったので、データを示しただけのものであります。本題に戻ります。これから、国際ロータリーの現況というのを皆さんにお話して共通認識を持っていただきたいということで、初めての方もいらっしゃるかと思います。いろいろロータリー関係の本を読んでいると、これまでの哲学のロータリー変遷というのが何となく頭にもやもやしていたので、整理するためにマップ表示してあります。これは年を追うごとにどういう風に動いているかという図であります。緯度と経度を持って何か表示するマップと呼ばれますが、縦軸です。これは個別のか集団的か、ロータリーでアイ・サーブとかウイ・サーブ、英語ではindividualかcollectiveという言葉を使います。時代と共に集団的になっているという頭があるものですから、こういう軸を設定しました。左右の軸は今日問題にしたい機能的なのか、精神的なのか、ということで、首から下、首から上のイメージであります。当初、ロータリーというのは、初期のロータリー物質的互惠と称して機能的であり、かつ個別で始まったんですけども、もう時を同じくして精神的互惠ということで、個別ではあるんですけども、精神的なところ。これは第1の危機ということで、それほど鋭い対立はなかったんですけど、一応乗り越えて間もなくシェルドンというものがちょっと時代が早かったということもあるん



ですけれども、特に矢吹さんは非常に落ちて後4つは上下したら物理的に下に書いてあるだけなんです、非常に元気がないというか、数の上で低迷していらっしゃいます。一番上の低空飛行しているのは、東白川クラブであります。これは基本認識というか、各クラブというのは、自分のことを一生懸命知っているんですけど、隣のクラブのことをよく知らないということで、客観的に見ていただきたいという話をしたかったので、データを示しただけのものであります。本題に戻ります。これから、国際ロータリーの現況というのを皆さんにお話して共通認識を持っていただきたいということで、初めての方もいらっしゃるかと思います。いろいろロータリー関係の本を読んでいると、これまでの哲学のロータリー変遷というのが何となく頭にもやもやしていたので、整理するためにマップ表示してあります。これは年を追うごとにどういう風に動いているかという図であります。緯度と経度を持って何か表示するマップと呼ばれますが、縦軸です。これは個別のか集団的か、ロータリーでアイ・サーブとかウイ・サーブ、英語ではindividualかcollectiveという言葉を使います。時代と共に集団的になっているという頭があるものですから、こういう軸を設定しました。左右の軸は今日問題にしたい機能的なのか、精神的なのか、ということで、首から下、首から上のイメージであります。当初、ロータリーというのは、初期のロータリー物質的互惠と称して機能的であり、かつ個別で始まったんですけども、もう時を同じくして精神的互惠ということで、個別ではあるんですけども、精神的なところ。これは第1の危機ということで、それほど鋭い対立はなかったんですけど、一応乗り越えて間もなくシェルドンというものがちょっと時代が早かったということもあるん

ですが、ビジネスのルールこういう風にやったらリーダーも増えるし、みんなハッピーになりますよというビジネスルールを提案したものがずっとロータリーのDNAということで、今に繋がる職業奉仕ということになっているんですが、これは日本人が考えられる職業観とはちょっと違うという話を後でします。同じく精神面の方で超我の奉仕というのが出てきました。しのごの言うなというところなんですが、このシェルドンと超我の奉仕。これが世論が理論派、超我の奉仕が自主性派ということで、わりと鋭く対立してどうなるんだろうなということだったんですが、程なく1923年の34番目の月、皆さんもご存じのとおり決議23-34で発展的に解消されたということで、クラシックなロータリーは一応、ここで解決してあとは順調に成長していったという歴史であります。経済の大恐慌これが第3の危機と呼ばれています。次に、第2次世界大戦第4の危機を経て順調に成長したのですが、21世紀になってから急に方向転換しています。これはもう隠れた革命という方もいらっしゃるんですが、非常に機能的な方向にハンドルを切り出したということで、現在のRIというのはもっと左にいるかもしれない。ただ、たくさんの危機を発展的に乗り越えてきたのは、常にロータリーを包む友情・親睦・寛容というものが本質にあったせいであると考えております。ロータリーの哲学の変遷というのは、こういう形だったんだ。これが基本認識でこの図をずっと使っていこうと思っております。今年の1月、国際協議会と称するエレクトを集めたセミナーがあるんですが、これは3年ぶりにフロリダのポータランドというところで開催されました。その時、ロータリーの主要人資料をこれから四人紹介いたします。どういう挨拶をされたかというのを大胆に中央にまとめた意識でご紹介します。これでロータリーの方向を見ていただきたいということなのですが、現在RI会長であります、その当時RI会長エレクト、ゴードン・マッキナリーさん。



スコットランドのロータリアンであります。このように言っています。以前のリーダーたちの良いアイデアを前進させ、ロータリーのビジョン声明を実現

するために改めて世界平和の推進に向けて進みましょうということをおっしゃっています。世界に希望を生み出そうというテーマを提案されました。併せてメンタルヘルスに関してロータリーは何かできるだろうという付加的な提案もされました。次の方です。これはジェニファー・ジョーンズさん。スターでありますね。現在直前会長。その当時新会長であります。この方は常に親日家でいらっしゃるんですけども、精神面も非常に大事にされる方で、今の動きを加速させ、クラブを温かく居心地が良く、成長の場とすることができれば未来は無限です、という言い方を2回か3回直接聞きましたが、こういうことをおっしゃって魅力的なクラブづくりがベースであると。女性会員



ですけれども、特に矢吹さんは非常に落ちて後4つは上下したら物理的に下に書いてあるだけなんです、非常に元気がないというか、数の上で低迷していらっしゃいます。一番上の低空飛行しているのは、東白川クラブであります。これは基本認識というか、各クラブというのは、自分のことを一生懸命知っているんですけど、隣のクラブのことをよく知らないということで、客観的に見ていただきたいという話をしたかったので、データを示しただけのものであります。本題に戻ります。これから、国際ロータリーの現況というのを皆さんにお話して共通認識を持っていただきたいということで、初めての方もいらっしゃるかと思います。いろいろロータリー関係の本を読んでいると、これまでの哲学のロータリー変遷というのが何となく頭にもやもやしていたので、整理するためにマップ表示してあります。これは年を追うごとにどういう風に動いているかという図であります。緯度と経度を持って何か表示するマップと呼ばれますが、縦軸です。これは個別のか集団的か、ロータリーでアイ・サーブとかウイ・サーブ、英語ではindividualかcollectiveという言葉を使います。時代と共に集団的になっているという頭があるものですから、こういう軸を設定しました。左右の軸は今日問題にしたい機能的なのか、精神的なのか、ということで、首から下、首から上のイメージであります。当初、ロータリーというのは、初期のロータリー物質的互惠と称して機能的であり、かつ個別で始まったんですけども、もう時を同じくして精神的互惠ということで、個別ではあるんですけども、精神的なところ。これは第1の危機ということで、それほど鋭い対立はなかったんですけど、一応乗り越えて間もなくシェルドンというものがちょっと時代が早かったということもあるん

に関して歴史的経緯は大事であって、各国の事情を尊重しましょうというようなことをおっしゃっていました。これが今リージョナリズム、地域化というキーワードで残っていくんですが、それは後の話であります。次の方です。



バリー・ラシンさん。これは財団のトップであります。その時エレクトだったんですが、この方はもう非常に機能的なことしか言いません。管理委員会は寄

付額5億米ドル、約650億円という目標を立てました。皆様のコミットメントは必要です。寄付をお願いしますという話だけをされました。最後です。ジョン・ヒューコ。これは

RIの事務総長兼CEOということで、この方だけが震災の年に就任されて、もう今年12年たっています。ずっと事務局長でRIの意向を決めていると言っても

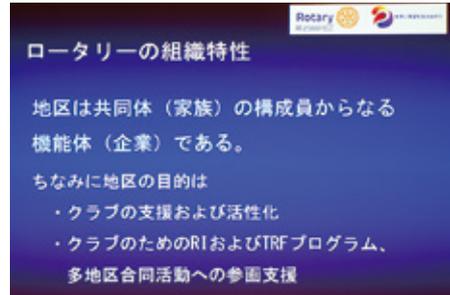


過言ではありません。この方が言い出して、新理事会で承認するという流れは踏んでいるんですが、この方の意向というのは非常に強いということで、この方はアイ・サーブを徹底してウィ・サーブです。今日では単独で何かをすることは不可能です。パートナーシップを強化することで、行動計画が実現されるでしょう、ということをおっしゃっています。ウクライナのことですね。で先ほどのマップの中に、今の4人を評価して置いてみました。ゴードンさんというのは、大体バランスがとれていて、ジェニファーさんというのは非常に精神的な方でバランスのとれた方だったと思うんですが。ラシンというのはもう機能的一本であります。寄付をお願いします。さらにジョン・ヒューコは集団的ということで、左に向かったRIの姿勢というのが非常に明確になっています。これが現状認識というか現況だと思っています。次ですね。問題にしたいのは、さっきの左右の軸であります。この軸の左側の部分。これは



から紹介します。非常に特異な、世界的に特異な特殊性を持っていて、環境でいいものだけを取り入れて、適応性が非常に高く、いつの間にか自分に取り込んで、高い地位に持っていくという日本人特有の特性があるんですが、日本人というのはまさにこういうことなんです。機能的と精神的を取り込んで、さらに上の高みの解決策を出す、というのが日本人の特性であります。ただ、これはそうは

いっても、西洋でさえ精神性というのは非常に最終的には大事だという話をしております。これは多くの方がこういうことを言っていると思うんです。これは、イギリスの作家のジョージ・メレディスという方の言葉であり有名な方ではないんですが、文明や国家は常に自らの内面に生じた虚ろなるものによって滅びる。それは決して外敵や技術的な立ち遅れによって滅びるのではない、というあまり有名じゃなかったんですが、有名なアーノルド・トインビーという方が自分の本の歴史の研究という中で引用して大変有名になった言葉であります。最終的に頼りになるのは、精神力であるという話であります。ロータリーの話に戻ります。ロータリーの組織特性というのは、地区



でもクラウドもいいんですが共同体、これは家族ですね。代表的な組織は共同体の構成員からなる機能体である、というのがロータリーの大きな特性であります。給料をもらってやっているわけじゃないんですね。みんな善意で共同体の一員のように参画して、結果は機能体であるべし、と機能体の結果が求められるという組織なんです。ちなみに地区の目的というのは、ロータリーショートに書いてあります。クラブの支援及び活性化であります。あとは、RIやTRF財団のプログラム、他地区合同活動への参画支援なんです。それも全てクラブのためだというのが地区の目的、機能体としての目的であります。そこで地区活動方針は2つ挙げています。左側の機能体という側面から、実はコストのかからない効率的な地区運営というものがもうこれから持続性を確保するためには絶対必要であるということ、こういう情報化社会でありますから、ガバナンスの確保ですね。特にリスク管理というのは非常に大事だということで、1本の目標にしています。もう1本の目標は、右側の精神面ということで楽しいロータリー活動と自己研鑽ということをして2本の柱にしております。これが機能性であって、こっちが精神性で融合させて活動していきましょうという話であります。ここから日本人がいかに特異かという話をさせていただきます。YouTube好きな方は、こういう話題は結構集まってくるので、僕も好きなものですから、どんどん集まってくるんですが、ただ鵜呑みにしてはいけないという話も入っています。日本文明というのは、非常に世界的にユニークな文明であり、日本文明というのと右に寄ったかな、と昔は言われたんですよ。今、もう定説になりつつあります。非常に8つ世界文明を定義して8番目にページ数は少ないんですが、日本文明というのを認めていらっしゃった先生の名前がちょっと度忘れしました。日本文明というのは非常に特徴があるということで、これは日本列島自身が非常に特性があるんですね。温帯にあって、大きな太平洋の東側にあって暖流がある列島ということで、温暖湿潤で森ができて、実は2番目に書いてあります。非常に長い時間、定住生活が可能になったということがキーワードであります。これは弥生以前1万3500年ということで、西暦でも今1500年～600年ぐらいの10倍近い時間を費やして日本人というのは精神的に熟成してきたんですが、この縄文のお話が縄文時代のことなんです。縄文の話がつまびらかにこのごろはなっていて、全くこれまでの評価が変わっています。それは非常に争いがない。これは一応基本的に植物食物が狩猟採集で手に入

ったということが大きいんですが、争いのない共同生活だったことと核家族で森の中ですから、家族原理というものの社会で非常に女性上位の、今の日本の家庭と一緒ですね。女性上位の優しい文明だったというのが、日本文明の特性であります。それを受けた日本人は、社会規範に非常に影響を受けています。これは日本人の社会規範ということで羅列してあります。一大特徴は、過剰な精神性であります。何もないものから、無から有を生じるこういう創造する能力というのは、実はホモサピエンス、要するに人類の一大特徴なんです。勿論、そういう可能性があったものが、日本に流れ込んできて、非常に特異な歴史的に長い時間を過ごしたせいで、異常な精神性を発達させたということで欧米社会がトレード、経済ベースのゼロサム社会と言われるのに対して、プラスサム社会とされています。これは1+1が5にも10にもなるという世界なんです。逆は1-1が0ではなく、-5にも-10にもなるという危険がある。プラスサム社会であります。このこういう精神的な過剰な精神性を持った日本人の基本的職業観、これがキーワードなんです。これは明治維新前後に外国から来た旅行者が旅行記を書いているんですね。日本人の職人とやりとりする中で、西洋のそういう労働の感覚と全然違うと述べています。特に金銭に非常に汚くないとかこだわらない、一言で言うと日本人の基本的な職業観は世のため人のためである。これはちょっと日本人が忘れつつある職業観のような気もしないでもないんですが、この世のため人の為というのは、言葉を変えればそのまま職業奉仕であります。日本人の職業奉仕というのはそういう形だったんだということが、この後色々参考にしたいんですが、その下2つも日本人の過剰な精神性の話を紹介しています。日本人というのは、技術的な安全という問題よりも、精神的な安心を重視します。これは日本の社会というのは、基本的に安全性というのは確保するのに、更に不安だという世界、不斜線の試験も見たそうですね。そういう性格を持っています。逆を言うと、本当に危険な時も安心だと思ってしまう指針があります。これは国防問題、まさにそのとおりだと思いますが、それは深追いしません。もう一つ、公平より公正。これはもうルールの問題よりも、その人が納得するかどうかが正義の問題を大事にしがちというのが日本人のメンタリティーであります。下の4つは効果的なクラブのための4要素と言われるCLP・DLPのよーいドンのお話であって、4つ要素が並んでいます。1番目は会員増強、2番目が社会奉仕、3番目が財団支援、4番目が人材育成ということで4つ並んでいて、実はどれが大事なんですかって考えた時に、欧米型は絶対社会奉仕の為に人材育成があって、会員増強があって財団支援があるというふうに捉えるんですが、日本人はいざ聞かれると違うんですね。第1は人材育成。要するに自分自身の成長を含めた人材育成がうまくいけば、それは自然と社会奉仕も実現されるし、会員増強や財団支援というのは些細な手段である。それが日本人の考え方なのだと思います。これはそれを受けて、実はレヴィ=ストロースというフランスの知っている方がいらっしやるかと思えます。哲学者、文化人類学者で2009年まで生きてられた方ですが、その方が明治維新の前後の旅行者と一緒にですね。日本に来てみて、色々日本人の仕事の場面に行ってみたりすると、その精神構造が西洋と全く逆であるってびっくりして書いています。その時の図式にしたものであります。もう西洋の方が分かりやすいんですが、西洋というのはもう我思うゆえに我あり。自己が中心にあって、それがそのルールのもとにどんどんどんどん広がっていく。機能的であって、自分自身が原因である出発点であり、精神構造が非常に遠心的である。日本は実は全く逆で

ある。環境に適応しながら自己というものを完成させていくという基本的な構造を持っている。よく紹介するのは住所表記ですね。何で日本は外からばって自分を書くのか。なので、西欧は自分から外に向かって書くのかというのが特徴的な発想であります。これは何を言っているのかなということになるかと思うんですが、実はロータリーのことを考えると、今の話は本当に特徴的に表れてきます。先ほど言ったシュルドンの話であります。日本にも商道德ということがあるんですが、シュルドンというのはもうビジネスルールを決めて、機能的にどんどんどんどん外に広げていった。さっきの西洋人の精神構造そのものであります。ただ、実現された社会というのは、それなりにハッピーな社会であるんですが、日本人の商道德というのはまず人づくりですね。人づくり自分づくりの結果として、最終的にハッピーな社会が出来上がるという構造なんです。先程もちょっと紹介しました。日本人には非常にそういう直接的な社会奉仕というのは不得意で、自分自身なり人間的な成長を待たなければダメだというのが、日本人の精神構造なんだという。もう一つ特徴的なのは、保守上での欧米との違い、これも同じような話です。欧米ローターアクトと日本のローターアクトを比べると、もう段違いで、そういう社会奉仕に関する意識が違います。これはもう日本のローターアクトはまだ成長前の人たちなので、もういきなり保守保守と言っても無理なんです。ところが、欧米のローターアクトというのは、もう社会参加が第1ですから、もうどんどんどんどん素晴らしい結果を出していくのが非常に特徴的で、それを見聞きすると、これはローターアクトだけの問題なく、その親のロータリアン自身が日本人自身がそういう精神構造を持っているんだということで、社会参画第一か、自己研鑽第一かの基本的な違いであります。これは考え方の違いなので、別に非難される話ではないんですね。こういう自分自身というのかわかると、奉仕というのに対するスタンスのかかわり方もわかってくるんじゃないかなという話であります。最後はクラブ文化の形成ということで、今日よく話題になりました。日本人というのは明らかな区別に対しては非常に許容的で取り込んでしまいます。見える区別に対しては。ところが見えない区別に対して差別するという非常に厄介なところがあって、これが精神的差別と言われてクラブ文化の形成の大元にかかっています。インクルージョンという問題はダイバーシティでいつも問題になります。インクルージョン。排他的じゃないことなんです。日本人のインクルージョンの実現するためには、この精神的な問題を解決しない限りは対応できない。非常にハードルは高いな、という気はします。もう一つは、善意の強要と書いてありますが。これも精神性の問題になってくるんですね。今月の8月号来月号のガバナーメッセージにこのことは書いてあります。精神性、精神性と言っているけれども、精神性は千差万別であります。自分の精神性が一番だと思いつつながら、人に何か言うときに善意の強要になっていることがままあります。特に会員増強に対するロータリアンのアクションというのは、暴力的な時もあります。善意の強要というのは非常に気をつけるべきことだと考えています。パスカルという方の言葉にこういうのがあります。人間は天使でも野獣でもない。ただ、天使になろうとすると野獣になってしまう。まさに善意の強要の話になってくるんですが、という精神的な重さというか、極端な精神性を日本人は持っているということで、ロータリーの未来ということで話したいと思えます。RIは数年前からロータリーの未来形成委員会、シェーピングロータリーフィーチャーという動きで、さらにグローバリゼーションを推し進めるよ

うな新しいガバナンス、統治形態を模索しておりますが挫折していきまして、今のキーワードはさっきも言いました。リージョナライゼーション。地域化の流れになっています。これは社会科学的にはナショナリズムですよね。グローバル化が限界を迎えてナショナリズムに動いているというもう世界的にはそういう動きになってロータリーがようやく気づき出したということですが、地域化の本質というのは、やはり地域の精神性とロータリーが標榜する機能性を融合させたものが地域化なんですね。そういうのが共存することで、ロータリーの持続性が確保できるということ、日本人の活躍する場は大きいという話でありまして、その大もとになるのは、実は魅力あるクラブづくりである。今日もお話ししました。ロータリーがまず提供できることは、物理的な交流促進であります。これは会員同士のコミュニケーションであり、クラブ同士のコミュニケーションであり、そういう場を提供すること、そこから育ってくるかどうかというのは次の話であります。最後になります。楽しいロータリー活動の話を中心とさせていただきます。エンジョイロータリーとそこら中でおっしゃるんですが、楽しいということはどういうことなんだろうという話。ちょっと考えました楽しいというのは意識するかしないかにかかわらずですね、内在する欲求を満たすプロセスなんですね。これを認めると欲求とは何だろうという話になるので、欲求というのを調べてみました。これはアメリカのマズローという方が、もう御存じの方だと思いますが、欲求5段階説というのを当初挙げたんですが、晩年になって6段階目の欲求も付け加えました。これが調和の欲求という、もうロータリアン好みのキーワードが並んでるんですが、その最初の4つ。生理的欲求、安全の欲求、社会に交わりたい欲求、そして認められたい欲求というのは、実は欠乏欲求と言われて外から何かくれという話なんですが、ロータリーというのはもう4番目まではわりと簡単に例会に出席いただければ満たされる欲求がありますが、次の2つの欲求を青く書きました。自己実現欲求と超我の欲求というのは、非常にある意味レベルの高

Rotary
ENGAGE

楽しいロータリー活動とは

“楽しい”とは顕在的・潜在的欲求の充足過程

マズローの欲求6段階説
生理的欲求、安全の欲求、社会的欲求
承認欲求、自己実現欲求、超我の欲求

欠乏欲求 (外から) → 存在欲求 (内から)

- ・ 外的な「楽しみ」から内的な「喜び」へ
- ・ 社会参加、新体験による主観的価値観の昇華
- ・ 会員が主役であり、魅力あるクラブの源泉

い欲求、内からの存在欲求と言われるらしいんですが、内からのその人の成長が必要になってくる欲求であります。最後まとめは、ロータリーで求めているのは外的な楽しみから内的な喜び。これは前の4つから次の2つに移っていただきたいというそういう場を提供できるのが、実はロータリーであるという話で、実は社会参加や奉仕という新体験による主観的価値観の昇華。これはその人それぞれに価値観があるんですが、できるだけ多くの人に共感してもらえるような価値観を醸成することが、実はロータリー活動の本質であろうと考えています。それぞれの会員が主役であり、魅力あるクラブづくりの源泉であるというのが今日の結論であります。最後、地区スローガン「エンジョイロータリー」ということで、それの中で言っていますが、福島プライドという素晴らしいスローガンがありますが、あれから借りました。エンジョイとある大谷プライドということで、ロータリーの誇りを楽しむことは、まさに今言ったようなロータリーの本質、提供できる環境を大いに活用して皆さん楽しいロータリー活動を進めていただきたいという、ロータリーの誇りを楽しもうというスローガンの話であります。以上で終わります。

